

図書館だより

第 8 号

1988. 12. 5 発行

編集兼発行 三重短期大学附属図書館 514-01 三重県津市一身田中野字蔵付157 冊 0592 32-2342

目

次

- 就任にあたって 田中達郎 (1)
- フランスの図書館・印象記 岩本 勲 (2)
- 乱読—パイロットの夢敗れて近眼に 田中欣治 (3)
- パートタイマーの雇用条件 附 最近の文献 尾崎正利 (4)
- 公立短期大学図書館協議会中部地区総会(報告) (5)
- 新規受入図書案内 (6)
- ベスト・セラーズ (11)

就任にあたって

田中達郎(附属図書館長)

この度 図書館長を拝命することとなった。図書は好きであるので、図書に囲まれているのは大へん気分がよいものである。

思えば、学生時代には一日百頁ときめて徹底的に読書したものである。眼光紙背に徹する注意努力と思索とを以って繰り返しながら暗記するようにして読んだ。下宿の人が健康にほんとうに心配してくれたものである。私の下宿生活は長かった。身を粉にして勉強した頃が懐しい。

今月は、京都に学会に行った際 30,000円ほど書物を買った。本日は4冊で157,000円ほどのものを注文した。これは古典であり神品鬼工であるから金額に比して冊数は比較的少ない。また数日前、書架を買い、本日また普

通より少し大きい特注の書架を作ってもらおう約束をした。これだけで1か月の給料の2倍近くになる。更に少し経つと東京の学会に行く。その際には少し買わねばならないだろう。これは一例であるが、しかし、本は好きであるのでこういうものが揃い充実していくのがほんとうに嬉しい感じがするものである。

これらは全く個人的なことであるが、先にも述べたように、私は今回は図書館長にさせていただいているのである。そこで図書館長として何をなすべきであるかということに思いを致さなければならぬ。細かい仕事はある。これらは普通にあるわけだ。しかし大切な仕事は何なのか。先週の木曜日、図書課長から、もう書庫が手狭になって書物が入らないことを聞いた。そして本日またその主旨のお話を耳にした。即ち増設が必要であるというのである。これは大事なことである。そもそも大学において書物というものは、狭くて入らないから、もう買わなく

てよいといえるであろうか。また、大学は、もう書物は充分買っているから、もう買わなくてもいいといえることができるだろうか。それはできないのである。仮令少しずつでもよいから、買わなければならない。それが大学の図書館なのではないだろうか。既に沢山買っているからもういいというものではない。古いよい書物が、必要であり、価値の高いものであることはよくわかる。しかし、また、新しい書物を買わなければならないことは否定することはできない。これが大学の図書館である。ところが、入れる場所があれば問題はないのだが、それがもう手狭になってしまったのである。即ち、書庫の増設が正にどうしても必要なのである。

これは、この緊縮財政の今では、なかなか大へんであるとは思ふ。しかし、私はこれはなさなければならないことだと思うのである。

ここにおいて、私は、紙上ではあるが、この場をお藉り致し就任の御挨拶を申し上げるとともに傍々この書庫の増設を心よりお願い致したいと存ずる次第である。(10月27日夜)

フランスの図書館・印象記

岩本 勲 (法経科教授)

フランス人は、とくにパリ人たちは外国人にたいしてかなり冷淡である。警察や郵便局では、言葉の拙さもあって、いくどか嫌なめにもあった。だが、こと図書館に関するかぎり、私の想い出は、多くの親切でてきばきした司書の方々の働きぶりと、それによって支えられた図書館の充実ぶりについての好ましい印象に満ちている。以下は、私が1981年9月から翌年8月まで、パリでの在外研究中に訪れたいくつかの図書館の印象記である。

私が常に利用させてもらったのは、通称シアンスポーと呼ばれる国立政治学院 Fondation Nationale des Sciences Politiques の附属図書館である。そこには政治・経済・法律を中心とした図書460,000冊が所蔵され、毎年18,000冊が新しく購入されている。

この図書館が非常にありがたかったのは、現代政治に関する必要な文献資料がほとんど揃っていたことのみならず、非常に詳細な索引カードが整備されていたことである。たとえば、政党を調べようと思えば、政党別の索引カードがある、という風に詳細な配慮が払われている。おまけに日本語が少し話せる司書嬢まで紹介され、心強いことこのうえなしであった。感心させられたことのひとつは、何百席もある閲覧席はいつでもほぼ満席であり、どの学生たちも真剣にノートをとっていたことである。ついでにいえば、フランスのどの図書館にもゼロックス復写機は常備されているけれども、一枚一枚コインを入れて作動させるもので不便極まりなく、だから学生たちは未だに筆写を主力にしている。日本では、学生はもちろん研究者でさえが、余りに安易にゼロックスに頼りすぎて、筆写がもつ大切な意味、つまり対象をよく読みながらその論理を追うということを忘れてしまっているのではないか、との反省にも迫られた。

どこの図書館を捜してもみつからないような本が必要になったときには、国立図書館 Bibliothèque Nationale にかぎる。同館は15世紀以来の書物を約7百万冊所蔵している。まず受けで専門分野及び求めている本を尋ねられる。受付司書は、すぐ目録を調べ、他の図書館にそれがあればまずそちらを紹介する。国立図書館にしかないことが分れば、早速、無料の48時間入場券を作成してくれる。1年通しや半年通しなどいく種類か入場券も販売しているのだが、本人の必要に応じてそれらを交付する。入場すれば大きな座席カードをくれ、貸出カウンターにそのカードと請求図書番号を示しておけば、座席で暫く待つうちに係員がそこまで本を届けてくれる。どんな貴重本でも特別な支障のないかぎり、しかも一度に何冊も閲覧が可能であった。閲覧室地下の広いフロアは総てカードボックスで埋まっており、確か大英博物館やアメリカ国立図書館の索引カードも並べられていたように記憶する。

学生がいっぱいで活気のあったのは、バンテ

オンと道を一つへだててあるサント・ジュネヴエグ図書館 Bibliothèque Sainte-Genevièveであった。向いがパリ大学法学部であり、この図書館は社会科学系の専門図書館である。ここでは、滞在許可書と専門と職業を示すだけで、1年間通しの入場券を無料で発行してもらった。その隣には、あまり有名ではないのだが、クジャス図書館 Bibliothèque Cujas がある。ここも社会科学系の専門図書館であり、学生が多かった。

パリ国立記録保管所 Paris Archives Nationales にはほとんどお世話にならなかったけれども、同所附属のフランス歴史博物館 Musée de l'histoire de France にはよく通った。そこにはフランス大革命時代の諸資料が常設展示されており、どれ一つをとっても、あの大革命時代のできごとを生々しく語っている。たとえば、ルイ16世の狩猟日記の1789年7月14日の欄には rien(何もない)と記されている。

1793年1月15、16、17日の国民公会における、国王死刑に関する採決記録では、ロベスピエールは「死刑」、マラーは「24時間後に死刑」を求めている。マリー・アントワネットのエリザベート夫人宛の最後の手紙は、切々と後に残される子供たちのことを頼んでいる。フランス大革命に少しでも興味のある者は、この博物館のとりこにならずにはおられない。

フランス大革命関係の博物館で忘れることのできないのは、カルナヴァレ博物館 Musée Carnavalet である。ここにはバスチーユ砦の石で作ったその模型やロベスピエールの遺品、クートンが愛用した車椅子など、当時の品が数々展示されている。ここにもいくどか訪れた。

地方の図書館では、バプーフの生まれ故郷のサン・カンタン Saint-Quentin の小さな市立図書館を訪ねたことがある。そこでは目ざしたものは見つけられなかったけれども、突然とびこんだ外国人の私にも、おばさんがとても親切だったことが未だに忘れられない。詳しくは拙稿「バプーフの故郷を訪ねて」(『三重法経セミナー』第4号)を参照されたい。

ルソーがパリに出て来る前、バランス夫人と遇したジャンベリーにある市立図書館では、ルソーが若い頃に書いた遺書のコピーに接することができた。そのオリジナルは、同図書館の宝物だと、館員は説明してくれた。

フランスの図書館以外では、イタリア・ミラノにあるフェルトリネリ研究所 Istituto Giacomino Feltrinelli の図書館に1週間ほどお世話になった。そこのパリ・コミュニケーションやバプーフについての文献の豊富さには目をみはる思いをさせられた。これについては、拙稿「パリ・コミュニケーションを訪ねて」(『三重法経セミナー』第4号)と「最近のバプーフ文献あれこれ」(『三重法経』第5号)に書いた。この図書館では、私が長い間捜していたバプーフ著作のオリジナル版に接することができたのみならず、すべてのコピーを快よく許可され、感激もひとしおであった。

大英博物館の手稿展示室については本誌『図書館だより』第5号にも書かせてもらったが、その図書館にも一言ふれておきたい。蔵書は1千万冊で、スタッフは450人、そのうち専門研究者が100人である。マルクスがここで『資本論』執筆のための研究を行つたことはつとに有名である。私は、イギリスでは単なる旅行者であったので、入場券は発行してもらえなかったけれども、見学だけはできた。その際、見学外国人の一人は案の定、マルクスの席はどこですか、という質問を案内者にした。案内者はウンザリした表情で、皆な同じことを聞きませんが、決まった席なんぞありませんでしたよ、と言って肩をすくませてみせた。

(1983年10月12日)

乱読—パイロットの夢敗れて近眼に—

田中欣治(法経科教授)

国民学校時代の私達は、文字通り晴耕雨読の日々を過していた。六年生担任の恩師I先生は、先生仲間では「熱血青年」のニックネームがあつて、教育にかけるきびしさと情熱には定評が

あった。校庭にかぼちゃを植え、山の畑で桑の皮むきをしながらでも、教科書を必ず持つことをしつけられ、歩きながらでも世界の地名や教科書の文章を暗誦させられた。

この頃、私は少年クラブと小学生毎日新聞を定期購読し、テレビジョンやレーザー光線という言葉を知ったのも、これら教科書以外の活字からであった。田舎の学校としてはめずらしく図書館が廊下に設けられていたが、またたく間に読み終って、何か知識を求めていた年頃であった。

その頃、名古屋の伯父が私の家に大量の文学書を疎開させた。子供のない伯父にとって、唯一の楽しみであった本のコレクションを戦火に失うのがしのびなく、親戚中で一番安全と思われたわが家に送ったのであろう。世界文学全集や日本文学全集はもちろんのこと、多くの作家の全集物や単行本が、わが家の二階を埋めつくした。敗戦後、この本を送り返す時、よくぞ二階が抜けなかったと思う程の蔵書であった。思いがけない宝の山が出現したわけである。

それからの毎日、私は一分でも永く在宅し、本を読みたかった。朝はぎりぎりまで、帰宅すると私は日課であった風呂の水汲みを手押しポンプでしながら読みふけた。食事の間や、風呂の中、便所の中、ところかまわず読書に熱中した。食事中には行儀があるいと、父の平手打ちが何度となくとんできた。就寝時間がくるとこっそりと懐中電灯を持ちこんで、蒲団の中で読みふけた。そのおかげで、パイロットにあこがれて、星をみつめて視力を養っていたのが、近眼になってしまった。

この時の読書スピードは吉川英治の宮本武蔵を二晩で読み上げる程度である。この時の乱読の習慣が大学院修了の頃まで続き、1日百ページ以上の印刷物のページを繰ることを目標にしていた。

パートタイマーの雇用条件

附 最近の文献

尾崎正利（法経科助教授）

今国会では、減税・人勤等国民の生活に直接結びつく重要案件の上提が予想されているが、なかでも、パートタイマーの身分保障をめざすパート保護立法の制定の動きが野党各党の中で活発化して来ている、と伝えられている（日本経済新聞9月22日付）ことに注目したい。パートタイマーの雇用条件について、労働者保護法規と現実の処遇との乖離には目をおおものがあるのが実情である。

労働省は、わが国産業界におけるパートタイマーの急増化と恒常化に伴い、パートタイマーに対する労働者保護法規の適用の明確化（その手段として、自主点検制度や雇い入れ通知書の発行の義務化）と労働者保護法規適用上の特例化を推進する方向でここ数年間行政指導を展開して来たのであるが、7月4日、省内のプロジェクトチームが行ったパート行政への提言について、今後の行政指導に取り入れるとした（毎日新聞7月5日付）。その提言の骨子は、(イ)パートタイマー用の就業規則の作成と意見聴取対象としてパートタイマーの代表者を含めること (ロ)雇い入れ通知書の交付 (ハ)超勤・休日労働の原則的禁止 (ニ)勤務日数に応じた年次有給休暇の付与、である。

これまでの労働省のパート行政の特徴は、雇用条件につきパートタイマーのフルタイマーからの分離化とその範囲内での雇用条件の明確化としてとらえ得るが、(イ)を新たに加え、パートタイマー用就業規則の作成に際し労基法90条1項にかかわらず被適用労働者の代表を加えることで、使用者の恣意を排除する目的達成については満足したと言えるであろうか。しかしその反面、分離化の方向はさらに強化されたと考えられ、労働者保護法規の重要な目的のひとつである平等雇用の達成からはますます離れてしまった。

パートタイマーに関する紛争は、解雇、年次

有給休暇等について、これまで提起されることが多かったが、最近の特徴として、賃金差別に関して争われる事例もあらわれていることに注目したい。この場合、パートタイマーとフルタイマーの分離化とその制度的合法化への動きは、賃金差別を固定化することになりはしないか（例えば、大脇雅子「同一労働と婦人パートの賃金差別訴訟」労働法律旬報1076号31頁はパートタイマーの差別賃金例を示す）。女子労働者の賃金差別が依然として解消されていない今日、婦人が大半を占めるパートタイマーの賃金差別は、倍加された差別となり、使用者がパートタイマーを雇用する動機の第一に掲げる経費の節減という理由も当然と納得出来るのである。

先のパート法案は、もっぱら平等雇用、特に賃金差別の防止に重点を置いているものと思われ、基本的には望ましい方向を旨と見えよう。しかし日経連は労働省が検討している男女雇用平等法案の制定に反対し、労働省に対して申し入れる意向である（日本経済新聞9月30日付）と伝えられている。このような状況では、パートタイマーとフルタイマーの平等化の達成見通しは暗いと言わざるを得ない。従って、パートタイマーは自ら武装せねば自己の利益を不当に侵害される結果となる。それには、使用者も往々にして理解する所の少ない、労働基準法その他労働者保護法規の習熟が不可欠であると言えよう。しかし実際に自己の権利を使用する場合は、いわば応用問題を解くに等しいから、その方面から知識を入れることも、即席とはいえない不可欠である。

以下に掲げるものは、以上のことを念頭に置き実用書を中心に選択しかつ比較的入手の容易な書物に限った。

1 資料・統計等

労働省婦人少年局編「婦人労働の実情」大蔵省印刷局（年刊）
日本婦人団体連合会編「婦人白書」草土文化社（年刊）
行政管理庁行政監察局編「パートタイマー

の現状と問題点」大蔵省印刷局
統一労組懇婦人連絡会編「婦人労働酷書」学習の友社

2 実用書（パートタイマー側からする）

働く婦人の悩み110番編「パート110番」労働旬報社
中島通子監修「パートタイマーQ&A」学陽書房
菅原真理子「失敗しないパートタイム」主婦と生活社

3 実用書（経営管理側からする）

日経連中小企業問題特別委員会編「卸売・小売業モデル就業規則」日経連弘報部
佐々木力「パートタイマー・アルバイト管理のすべて」日経連弘報部
慶谷淑夫「パートタイマー雇用の実務」（日経文庫）日本経済新聞社
労働大臣官房総務課監修「パートタイマー・家内労働者をめぐる法律相談」新日本法規

4 地方自治体におけるパートタイマー

青木宗也他編「自治体における民間委託・臨職の法的検討」総合労働研究所

公立短期大学図書館協議会 中部地区総会（報告）

当 番 校：三重県立看護短期大学
議 長 校：岐阜女子短期大学

1983年8月11日、洞津会館を会場として行なわれた、「公立短期大学図書館協議会中部地区総会」の議事について、その概要を、ここに報告いたします。

協議事項については

- 1 コンピューター等の導入について
- 2 図書雑誌等の紛失予防について
- 3 短期大学設置基準の見直しについて
- 4 会費値上について

以上の4つの事項が、事前に三重県立看護短期大学より提案されていました。

1 「コンピューター等の導入について」は時代の趨勢なので、この機会に討議してはどうかという、三重県立看護短期大学図書館長の提案説明に続いて、各館より次のような意見等が出されました。

まず、静岡女子短期大学から、『文献検索を行なうために、カナ、英文を打ち出す、端末機を購入し、DIALOG による、理科系文献の検索を行なっていることが報告されました。しかし、これは、コンピューター導入とは異なり、また、直接の操作も利用者個人が行なうということでした。そして、このことに関連して、検索1件当りの費用や、その費用が、講座研究費として、予算に計上されていることが、報告されました。次に、愛知県立看護短期大学より、看護学に関する自館の文献を集中的に検索する目的で、コンピューターを導入する計画があることが報告されました。

2 「図書雑誌の紛失予防について」は、図書雑誌等の紛失が多くどう対応すべきか、という三重県立看護短期大学からの提案説明を受けて、まず、愛知県立看護短期大学より、図書雑誌等の紛失があれば、県に報告しなければならないので、その保管には、気を付けているという報告の外、各館より、カバンの持込みの問題や、紛失図書の傾向などの意見が出され、そして、紛失防止のための管理強化と、利用者サービスとの問題について話し合われました。

3 「短期大学設置基準のみなおし」について、公立短期大学図書館協議会より、図書館事業振興法の討議の中で、短期大学設置基準の見直し案について、全体的に、討議していくという趣旨のもとに、提案され、それにより、同設置基準の33条の人数や、学生数のみでは、固定化されるので、蔵書数も、職員の配置の基準に含めるよう要望することになりました。

4 「会費の値上げ」の提案については、承認が得られました。

以上、4つの協議事項について討議された後、来年度の当番校に愛知県立看護短期大学と、幹事校に長野県立短期大学を選出して閉会しまし

た。

新規受入図書案内

総記(000)

ペスト大流行(新書黄 225) 村上 陽一郎
 学力とは何か(新書黄 224) 中内 敏夫
 知的生活 P. G. ハムトン
 現代読書論 = 1. 2 紀田 順一郎 他
 書書周遊 萩原 延壽
 群書類従・第一輯 嶋 保己一
 コンピュータ技術者神話の終焉 下田 博次
 世界年鑑 1983年 共同通信社
 婦人・家庭・生活に関する27年間の雑誌文献
 目録 昭和23年-昭和49年

「雑誌文献目録」編集部
 国際関係に関する17年間の雑誌文献目録 昭和23年-昭和39年

「雑誌文献目録」編集部
 通貨・金融、証券、保険に関する17年間の雑誌文献目録 昭和23年-昭和39年 I、II

「雑誌文献目録」編集部
 朝日新聞縮刷版 1983、3 朝日新聞社
 選定図書総目録 1983年版

日本図書館協会
 第三折々のうた(新書黄 226) 大岡 信
 頭痛(新書黄 227) 高須 俊明
 エッフェル塔ものがたり(新書黄 228) 倉田 保雄
 20世紀思想文庫 6 ウイトゲンシュタイン 滝浦 静雄

電子計算機利用の手引き
 東京経済大学電子計算機室
 世界大百科年鑑 1983 下中 邦彦
 出版年鑑 1983 出版年鑑編集部

哲学・宗教(100)

自然宗教に関する対話
 デイヴィッド・ヒューム
 カントと物自体 E. アディックス
 マルクスの自然概念 A. シュミット
 宗教の自然史 デイヴィッド・ヒューム
 ヘーゲルの本質論理 大村 晴雄
 ヘーゲル初期神学論集 I、II
 ヘルマン・ノール
 ヘーゲルの青年時代 ディルタイ

シェリングの実践哲学研究 河野 真
 デカルトとパスカル 森 有正
 フィヒテ研究 大峯 顯
 ヘーゲルの社会哲学 E. トーピッチュ
 ヘーゲルの修業遍歴時代 速水 敬二
 ヘーゲル哲学の諸問題 C. バケス
 マルクスからヘーゲルへ G. リヒトハイム
 認識論としての弁証法 許 萬元
 大論理学 1 ヘーゲル
 見田石介著作集 ①—⑥ 補巻 1 見田 石介
 現代唯物論の基本課題 森 信成
 唯物論哲学入門 森 信成
 初期マルクスの思想形成 山中 隆次
 マルクスとヘーゲル学派 大井 正
 哲学の中心問題 A. J. エイヤー
 現代哲学選書 9 徳永 恂
 論語の新研究 宮崎 市定
 社会発展の弁証法 G. シュティーター
 現代哲学の課題 現代10大哲学 飯島 宗享
 正義論入門 藤川 吉美
 歴史家ヒュームとその社会哲学 大野 精三郎
 西洋近世哲学思想要論 池田 善昭
 ライブニッツ哲学の新解釈 池田 善昭
 人類の知的遺産 35 スピノザ 工藤 喜作
 ミル記念論集 J. M. ロブソン 他
 観念論の論駁 G. E. ムーア
 倫理学 G. E. ムーア
 倫理学原理 G. E. ムーア
 言語と意識の起原 チャーン・デユク・タオ
 悪魔と裏切者 ルソーとヒューム

山崎 正一 他
 唯物論と日本イデオロギー 吉田 傑俊
 精神科学の諸問題 小松 彌郎
 東洋の論理 峰島 旭雄
 新興宗教の系譜 佐木 秋夫
 ヒュームあるいは人間的自然 G. ドゥルーズ
 ヘーゲルの時代 ジャッタ・デリダ
 哲学の否定 ワルター・シュルツ
 ウィトゲンシュタインの生涯と哲学 黒崎 宏
 本居宣長 城福 勇
 歴史主義とその克服 E. トレルチ
 破門の哲学 清水 禮子
 ヘーゲル『法哲学』研究序論 鷺田 小彌太
 人間論の可能性 瀬島 順一郎 他
 唯物史観の構想 鷺田 小彌太
 現代唯物論哲学ノート 鷺田 小彌太
 マルクス・法哲学批判序説 鷺田 小彌太
 左右田哲学への回想

左右田博士五十年忌記念会

近世哲学史講義 シェリング
 親鸞のこころ 寺川 俊昭

歴史(200)

日の丸は見ていた 櫻木 富雄
 三重県の古代史 西岡 一郎
 日本現代史の出版
 東京歴史科学研究会 現代史部会
 東風西雅 宮崎 市定
 柳田國男回想 白井 吉見
 旅と思想のバラード 水田 洋
 フランス・ユマニスムの成立 渡辺 一夫
 発掘から推理する 金関 文夫
 大山郁夫〔評伝・回想〕 丸山 真男 他
 室町記 山崎 正和
 人に志あり 大島 清
 近代的世界観の展開 大橋 精夫 他
 人間ゾルゲ 石井 花子
 学問のすすめ 梅原 猛
 時刻表昭和史 宮脇 俊三
 ノアの大洪水 金子 史朗
 日本地誌提要 元正院地誌課
 写真集 マンボ灌漑 阪野 優
 続・現代史資料 4 伊藤 隆 他
 伝記アルバム マルクス=エンゲルスとその時代
 ドイツ史博物館(ベルリン)ディーツ出版社
 マルクス=エンゲルス編集部

社会科学(300)

公判法大系 III・IV 熊谷 弘 他
 注釈 特別刑法 第二卷・第三卷・第六卷・I・II 伊藤 榮樹 他
 現代労働法講座 1-10 日本労働法学会
 ケシをつくる人々 菊池 一雅
 東南アジアの少数民族 岩田 慶治
 社会と文化・世界の民族 周 達生
 女の文化人類学 綾部 恒雄
 モンテスキューとルソー
 エミール・デュルケーム
 講座現代の高校教育 第1巻 田代 三良 他
 マルクス=エンゲルス教育論 1・2
 ペ・エヌ・グルズデフ
 ラートブルフ著作集 第1巻、第2巻
 グスターフ・ラートブルフ
 現代法学全集 1 団藤 重光
 経済学批判 4 「経済学批判」編集委員会

国民経済計算年報 昭和58年版 経済企画庁
三十年史 会津短期大学三十年史編集委員会
昭和58年版地方財政白書 自治省
河上肇全集 7、11、22 河上 肇
財政再建、増税なき再建、は可能か

水野 正一
昭和57年版 世界経済白書 経済企画庁
思春期暴力 おとなたちの死角

東京都精神医学総合研究所
Reaganomics in the Stagflation Economy
Sidney Weintraub 他

共産党宣言 マルクス=エンゲルス
空想から科学へ マルクス=エンゲルス
賃金・価格・利潤 マルクス=エンゲルス
賃労働と資本 マルクス=エンゲルス

カール・マルクス レーニン
フォイエルバッハ論 エンゲルス

現代社会学の系譜 D. マーチンデル
ロシア資本主義論争 A. ヴァリツキ

法哲学と実定法学 日本法哲学会
フランス語版資本論の研究 林 直道

資本論第1巻フランス語版 カール・マルクス
民族問題ノート レーニン

金融問題の知識 呉 文二 他
法と家族 原田 綱夫

高等教育改革への道
大学の教育の改善に関する国際会議企画委員会
企業環境論 西尾 一郎

第19回、20回那覇市統計書 昭和54、
55年版 那覇市企画部企画課

鹿児島市統計書 昭和54、55年版
鹿児島市企画部企画課

別府市統計書 昭和54、55年版
別府市総務部企画課

第5回、6回宮崎市統計書 昭和54、55年
宮崎市企画部企画調整課

統計いわくに 昭和54年-56年版
岩国市市長公室企画課

統計要覧79 鳥取市総務部企画室
マルクスと社会科学 ゾンバルト

大系・日本国家史4・5 原 秀三郎 他
歴史科学大系 26 歴史科学協議会

マルクス主義自由論
ゴットフリート・シュティエラー
講座史的唯物論と現代3 永原 慶二 他

資本主義国家の構造 1
ニコス・プーランツァス
ポーランド革命 岡田 春夫 他

叢書・同時代に生きる③ 戦後精神 菅 孝行

何よりもダメな日本 菅 孝行
日本教の社会学 山本 七平 他

知識産業革命 坂本 二郎
遊びと人間 R. カイヨフ

労働の歴史 ユルゲン・クチンスキー 他
J. S. ミル体系序説 四野宮 三郎

現代社会科学の諸問題
ア・エム・ルミヤンツェフ
自然法論 H. ミッタイス

ソビエト国家と法 ヴェ・チヒクワッセ 他
統一戦線と政府綱領 松宮 龍起

現代共産主義事典 現代思想研究会
マルクス主義の根本問題

ゲ・ヴェ・プレハーノフ
ジャパンアズナンバーワン
エズラ・F. ヴォーゲル

私立大学その虚像と実像 中村 忠一
三一時代のアメリカ 佐藤 隆三

フランス文学講義II 篠沢 秀夫
ワークブック法学、憲法 田中 実 他

哲学史の可能性 鷲田 小彌太
現代地方自治全集=1-6、8-12、14、
16-18、20-22、24

坂田 期雄 他
欧米の都市開発 佐々波 秀彦

ソビエト法理論史研究 1917-1938
藤田 勇

行政法の話 林 修三
環境権と裁判 原田 尚彦

行政行為論講義 山内 一夫
訴えの利益 原田 尚彦

ワークブック行政法 市原 昌三郎 他
行政法入門 今村 成和

行政管理と広報・公聴
地方自治研究資料センター
Index to Legal Periodicals 1-9

Eldon, R. James
世界の祭り&衣装 芳賀 日出男

全国市町村要覧 57年版
自治省行政局振興課

講座マルクス経済学6、7 山田 鋭夫
アダム・スミスと現代 高島 善哉 他

資本論を学ぶ I-V 佐藤 金三郎 他
資本論成立史 1-4 R. ロスドルスキー

欧米マルクス経済学の新展開 伊藤 誠 他
現代法とマルクス主義 モニク・ヴェイユ 他

経済的社会構成の理論 市川 泰治郎
クルプスカヤ選集 10
エヌ・カ・クルプスカヤ

技術論と技術教育 山脇 与平
 社会主義における国家と民主主義 藤田 勇
 日本教育労働運動小史 増淵 穰
 グラムシ獄中ノート アントニオ・グラムシ
 日本経済における国家 ヤ・ペヴズネル
 価値および生産価格の研究 見田 石介
 共同体論争と所有の原理 福富 正実
 経済恐慌 F・エルスナー
 社会主義革命理論の研究 ユ・ア・クラシン
 高校教育改革の基本問題 木下 春雄
 プロレタリア教育の根本問題
 エドウィン・ヘルンレ
 マルクス主義教育学の方法論
 イ・エフ・スヴァドコフスキー
 経済学批判と弁証法 細見 英
 レーニン教育論大系 ヴェ・イ・レーニン
 社会科学者としてのヒューム 田中 敏弘
 労働過程論ノート 内山 節
 唯物史観と労働運動 富沢 賢治
 人間社会の形成 今西 錦司
 科学による反革命 F・A・ハイエク
 資本論研究の世界 伊藤 誠
 社会構造とパーソナリティ T. パーソンズ
 社会意識の理論 田中 義久
 日本社会運動史研究史論 文献目録とその解説
 小山 弘健
 帝国主義論コメンタール 原田 三郎 他
 マルクスにおける経済学の形成 M. リュベル
 地方自治と大学
 東京都立大学・短期大学教職員組合
 高等学校学習指導要領解説 工業編 文部省
 日本人論の検証 佐橋 滋
 マルクス主義と国家 N. ボッピオ 他
 素描経済学史 杉原 四郎
 ソヴェト反体制 第1輯 菊地 昌典 他
 " 第2輯 石堂 清倫 他
 マルクス主義と哲学 コルシュ
 高田保馬博士の生涯と学説
 高田保馬博士追想録刊行会
 一つの日本文化論 有賀 喜左衛門
 見田石介ヘーゲル大論理学研究 1-3
 ヘーゲル論理学研究会
 超先進国日本 中川 八洋
 国富論研究 I, II, III 大河内 一男
 スターリン主義批判の現段階 村岡 到
 ネット経済の研究 中山 弘正
 社会主義とは何か プレオブラジエンスキー
 告発する! 狂人は誰か
 ジョレス、メドヴェーデフ 他

失脚から銃殺までニブハーリン
 ロイ・A・メドヴェーデフ
 スターリンとスターリン主義
 ロイ・A・メドヴェーデフ
 テリの悲劇 国際問題研究会
 統なき革命テリの道 レジス・ドブレ
 社会構成の歴史理論 市川 泰次郎
 現代社会主義経済論 岡本 正他
 経済学は現代を救えるか 斎藤 精一郎
 マルクス経済学の現代的課題 佐伯 尚美 他
 消費社会の神話と構造 J. ボードリヤール
 グラムシのヘゲモニー論
 ルチアーノ・グルッピ
 テリ人民連合 人民戦線史翻訳刊行委員会
 経済体制論 第11巻 村上 泰享 他
 転換期の争点 宮崎 義一
 ゼロ・サム社会 レスター・C・サロー
 天皇論ノート 菅 孝行
 現代社会主義再考、下 いいだ もも
 日本社会の構造 福武 直
 世界資本蓄積論 サミール・アミン
 毛沢東選集
 日本警察の秘密 鈴木 卓郎
 Wirtschaft und Recht R. Stammer
 危機の構造 小室 直樹
 ソビエトの若者たち 寺谷 弘壬
 マルクス主義研究年報 1977年版
 マルクス主義研究セミナー
 文化の意味 F. アラン、ハンソン
 資本論と現代 向坂 逸郎
 竹中労の右翼との対話 竹中 労
 巨大工場における資本と労働 向笠 良一
 科学的社会主義 上 岡本 博之
 岡山市の統計 昭和55年版、56年版
 岡山市総務局事務管理課統計係
 倉敷市統計書 昭和54、55年版
 倉敷市企画部統計課
 昭和54年版 高知県統計書
 高知県企画部統計情報課
 昭和54年版 高知市統計書
 高知市企画部企画課
 今治市の統計 昭和54、55年版
 今治市総務部企画課
 松山市統計書 昭和54、55年版
 松山市企画管理部企画課
 宇治市統計書 昭和55年版
 宇治市企画管理部企画課
 宝塚市統計書 昭和54、55年版
 宝塚市総務部行政課

堺市統計書 昭和54年度版
堺市総務部企画課
堺市統計書 昭和56年
堺市総合企画部企画課
第65回-第68回 大阪市統計書 昭和52
年版-昭和55年版
大阪市総合計画局企画部統計課
統計なら 昭和54年版(第11回)、55年
版(第12回) 奈良市総務部文書課
犬山市の統計 昭和55年版
犬山市総務部総務課
昭和53年版-昭和55年版 名古屋市統計年
鑑 名古屋市総務局統計課
昭和54、55年版 岐阜市統計書
岐阜市企画部統計課
岡崎市統計書 1979、1980年版
岡崎市市長公室企画
第79回静岡市統計書 昭和55年版
静岡市企画部統計課
昭和54年版 金沢市統計書
金沢市企画調整部調査統計課
長野市統計書 昭和54、55年版
長野市企画調整部企画課
第3回桐生市統計書 昭和52年版
桐生市企画部情報管理課統計係
松本市の統計 昭和55年版
松本市総務部行政管理課

自然科学(400)

現代自然科学と唯物弁証法 岩崎 允胤 他
私の進化論 今西 錦司
大気および水中の有害物質の許容濃度
ユ・ア・クロトフ
環境汚染と健康障害 若月 俊一

工学及び家政学(500)

染織技法入門 木村 光雄 他
生活技術 中山 葉子
書斎の復活 田中 隆
超技術社会への展開 林 雄二郎 他
ここが知りたい洋裁のコツQ&A
ドレスメーカーキング編集部
52年版 三重県環境白書 三重県生活環境部
東邦瓦斯最近10年の歩み
東邦瓦斯KK社史編集委員会

廃棄物処理法 人間環境問題研究会
環境問題と国際会議 人間環境問題研究会
環境汚染と漁業被害 人間環境問題研究会
環境問題の国際的動向 人間環境問題研究会
環境アセスメントの法的側面
人間環境問題研究会
公害における因果関係と受忍限度
人間環境問題研究会
海洋汚染の現代的諸問題 人間環境問題研究会
廃水・廃棄物処理廃水編 岩井 重久 他
産業廃水の処理 エッケンフェルダー
水質汚染の生物学的研究
チャールス・ジー・ウィルバー
石油汚染と水産生物 日本水産学会
1982年版 日本の石油化学工業
石油化学課
メカトロニクス革命 下田 博次

産 業(600)

地域技術の時代 地域技術研究グループ
科学文明に未来はあるか 野坂 昭如
鉄道旅行の歴史
ヴォルフガング・シベルプジュ
200カイリ時代と日本の水産 川崎 健 他
図説・農業白書(昭和50年度)
農林統計協会

芸 術(700)

ヘーゲル全集 美学 第1巻の上・中・下
第2巻の上・中・下 第3巻の上・中
ヘーゲル
美学入門 ジャン・パウル
レムブラントとスピノザ レオ・バレット
芸術における美と現実 瀧 崎 安之助
芸術と自由 永井 潔
芸術論ノート 永井 潔
日本の美術 1922-205
色彩の使い方 原国 政哲
デザインの発想 ロジャー・ニコルソン

語 学(800)

文章料理教室 亀山 明生
英文法史 渡部 昇一

現代独和辞典 R. シンチンゲル 他
 同出版社、新修ドイツ語辞典

初級クラスのドイツ語 矢儀 万喜多 他
 言語と認識 石渡 均 他
 新和英大辞典 K. O. アーベル 他
 学研 漢和大学典 増田 綱
 日本語セミナー・三 日本語の使いかた 藤堂 明保
 金田一 春彦

現代アメリカ語辞典 最所 フミ
 ビジネス英会話教本 向 謙治郎
 外来語の語癡 吉沢 典男 他
 会話作文英語表現辞典 山田 晴子 他
 研究社カセットライブラリー6 英会話の婉曲表現 ポール・ソローケン 他
 日本語セミナー・一 日本語とは 金田一 春彦

The How and Wey of English Hugh. E. Wilkinson
 英語なぞ遊び辞典 郡司 利男
 大学英語教本 文型中心 池田 拓朗
 文化比較の英会話 キャサリン・森川
 英語音声学入門 竹林 滋
 クロース 現代英語文法 R. A. クロース
 英語史読本 A. G. リッグ

The Shorter Oxford English Dictionary
 Vol. 1, 2 C. T. Onions
 英語学大系 13 英語学史 渡部 昇一
 やさしいドイツ語入門 山川 文平

文 学(900)

北海道民主文学 北海道民主文学編集委員会
 孤燈の夢 金関 文夫
 斎藤茂吉 日本文学研究資料刊行会
 ネルヴァル レーモン・ジャン
 幻視者上、下 ネルヴァル
 一草園雑記・身辺雑記 野田 弥三郎
 大仏造営から仏足石歌まで 板橋 倫行
 フランス文学講義 1 篠沢 秀夫
 パロディ論 W. ディーツェ
 妖術記 河野 多恵子
 老舎小説全集 9. 1. 0 老舎
 積木くずし 穂積 隆信
 古事記は日本のふる里だ 三版 寺田 青胡
 A Historical Survey of English Literature Peter Milward

Addresses on General Subjects E. Blunden

衷声で歌へ君が代 丸谷 才一
 近代小説研究 作品・資料 紅野 敏郎 他
 現代小説研究 作品・資料 紅野 敏郎 他
 フランス幻想文学傑作選 1 窪田 般彌 他
 「雨の木」を聴く女たち 大江 健三郎
 方法としてのアジア 竹内 好
 一代男新考 森 鉄三
 露伴全集附録 谷沢 永一 他
 源氏物語の文体と方法 清水 好子
 孫悟空の誕生 中野 美代子
 長屋大学 金関 文夫
 文学史こぼれ話 内田 保広
 文体の論理 柳父 章
 ドイツの古典作 VII ワイマル友の会東海支部
 現代ドイツ戯曲論集 クヴェレ会

ベスト・セラーズ

名古屋 ちくさ正文館
 1位 相对幻論 吉本 隆明
 2位 和田アキ子だ文句あっかノ 和田 アキ子
 3位 とろいことやっとなる 菅原 宣彦
 4位 鹿鳴館の系譜 磯田 光一
 5位 酔ひどれ歌仙 石川 淳 他
 6位 1000円電卓活用法 西尾 茂巳
 7位 84年版間違いだらけのクルマ選 徳大寺 有恒
 8位 提義明の10年後の発想 原田 昌範
 9位 英文解釈の基礎 西田 実
 10位 生成 M・セール

大阪 旭屋書店
 1位 和田アキ子だ文句あっかノ 和田 アキ子
 2位 海外出張・ビジネスハンドブック 日商岩井広報室トレードピア編

- 3位 公文式教育法入門 公文公編
- 4位 ポカポカあたたためてグングンやせる
島山 みどり
- 5位 それでもガンは治る 加藤 清
- 6位 模索する大國日本
タイムライフブックス編集部編
- 7位 私の読書 図書編集部編
- 8位 地ぶき花ゆう 高橋 揆一郎
- 9位 見栄講座
ホイチョイ・プロダクション
- 10位 仏教を読む・3 平田 精耕

東京 新宿 紀伊国屋書店

- 1位 見栄講座
ホイチョイ・プロダクション
- 2位 模索する大國日本
タイムライフブックス編集部編
- 3位 相對幻論 吉本 隆明
- 4位 和田アキ子だ文句あつかい
和田 アキ子
- 5位 意識革命のすすめ 広岡 達朗
- 6位 税金を買う 杉山商事税務研究会編
- 7位 海外出張・ビジネスハンドブック
日商岩井広報室トレードピア編
- 8位 女性アルコール症候群 関谷 透
- 9位 宇宙からの帰還 立花 隆
- 10位 日米関係を問いつめる
花田 良平 他

文庫・新書

- 吉祥寺 弘栄堂書店
- 1位 ゲッコ提督 K・ダールトン
- 2位 かぼちゃの馬車 星 新一
- 3位 隠し剣・孤影抄 藤沢 周平
- 4位 男はころり女はころり 田辺 聖子
- 5位 不思議の國ニッポン・8 P・ボネ
- 6位 南京大虐殺のまぼろし 鈴木 明
- 7位 ロンドン旅の雑学ノート
玉村 豊男
- 8位 天女裸像 斉藤 栄
- 9位 女相場師 清水 一行
- 10位 真幻魔大戦・9 平井 和正

月刊ベスト(10月)

- 名古屋 ウニタ書店
- 1位 私は本当に私なのか 木村 敏 他
- 2位 クライシス・17

- 3位 私の毛沢東主義「万歳」 中沢 哲郎
- 4位 壁と炎・1
- 5位 相對幻論 吉本 隆明
- 6位 構造と力 浅田 彰
- 7位 挾撃される現代史 松本 健一
- 8位 民主主義は工場の門前で立ちすくむ
熊沢 誠
- 9位 糸井重里の仕事
「広告批評」編集部編
- 10位 福祉労働・20
(日本読書新聞 '83.12.5)

案 内

冬休みの長期貸出を下記の要領で
行ないますので、利用下さい。

記

貸出期間：12月14日から

1月11日まで

貸出冊数：1人5冊以内

* * *

図書館だよりの原稿を募集してい
ます。図書館や読書に関するものな
らば何んでも結構ですので、寄稿し
てください。

図 書 館